令和５年度　　学校評価表　　吉舎中学校区　　三次市立　　（　吉　舎　小　）　　学校

小中一貫教育目標	「自ら学び　考え　自立した行動ができる『きさ』の子ども」の育成	経営理念	○ミッション ・子供の命を守る（生存権の保障） ・子供に生きる力をつける（学習権の保障） ・子供も教職員も幸せになる（Well　Being） ○ビジョン～愛で笑顔あふれる学校～ ・知・徳・体の「基礎・基本」を身に付け、社会でたくましく生きる力を育てる学校 ・地域を愛し、誇りに思い、地域と協働し、より良い社会を築く志を育てる学校
学校教育目標	自ら学び　考え　自立した行動ができる『きさ』の子どもを育成する学校		

A　適切である
B　概ね適切である
C　あまり適切でない
D　全く適切でない
（N　判定できない）

評価計画							自己評価						学校関係者評価	
項目	重点	中期経営目標	短期経営目標	具体的な取組・方法	評価指標	目標値	達成値 中間	達成値 最終	達成度	評価	分析（成果と課題）	改善方策	評価	記述
確かな学力	◎	確かな学力の定着と主体的・対話的で深い学びの実現	基礎的・基本的な知識・技能の定着	・各教科の特性を生かした指導を工夫改善し、児童の「わかる・できる」を保障する。 ・ドリルタイムを機能的に活用し、基礎的な技能の習得や復習を図る。 ・児童一人一人の実態に応じた家庭学習の課題を工夫する。	・国語科・算数科の単元テストで80点以上の児童の割合を各学年85％以上にする。 ・三次市学力到達度検査（基礎・活用）で全国平均を上回った教科数の割合を85％以上にする。	単元85％ 市85％	単元68％	単元78％ 市88％	92％ 104％	B A	フラッシュカードやドリルタイムを活用した漢字や計算の反復学習をすることで、基本的な力の定着につながった。ある程度まとまった文章を大まかに読み取る力が不十分。語彙力が不足している。算数科の文章問題や応用問題で躓いている児童が見られる。	これまでの取組を継続する。 読書活動を推進するとともに、新出漢字の指導やスピーチの時間など語彙力をつける場として活用していく。算数科では、図や絵の活用するとともに、授業の中で説明をする力をつける。	B A A A A	・ドリルタイムを機能的に取り入れている。また、理解の個別に合わせた取組を行えている。語彙力が課題か。 ・児童の心の安定を図り、個々に応じた目標設定が具体にされている。（学力に向かう基礎） ・子どもたちの実態に即した取組が進められていると思います。小学校での学びが、この後どうつながっていくのか、例えば大学入試で問われる学力とは何か、そうしたことを先生方にもぜひ知っていただきたいと思います。 ・一人一人に実態に応じて、学習への取組をしてくださっている成果が出ていると思いました。 ・自学習の慣習を身につける方法を取り入れてください。
			「表現力」の育成	・「話す・聞く」の基本的な力をつけるために、朝会での音読や1分間スピーチ、フリートークなどに取り組む。 ・ペア、グループ、一斉学習といろいろな形態で考えを伝える場を設定する。 ・考えを書く、学習の振り返りを視点をもって振り返る時間を確保する。	・自分の考えを持ち、それを伝えている児童の割合を80％にする。	80％	78％	81％	101％	A	スピーチを継続して行うことで、相手意識をもって話すことができるようになってきた。ペアなど小集団を活用することで、考えを交流することに抵抗感がなくなり伝え合うことができるようになってきた。自分の考えが持てなかったり、伝えることができなかったりする児童が固定化している。話す内容がまとめられず、伝えたいことが十分に伝わらないことがある。	自分の考えを書く時間の確保をする。支援の必要な児童に対して個別に考えやヒントや書き方の大まかな構成を提示することで全員が考えを持って発表できるようにする。考えを発表した際の肯定的評価を増やし、達成感や自信につなげる。	A A A A A	・１分間スピーチやグループトークを取り入れており、表現力が伸びていると思われる。お互いの意見を聞く、書くなどの取組が良いと思った。 ・学校に訪問した時、児童の個性を大切にしていることが伝わってくる。自分なりの表現力が育っている。 ・発達段階に応じた発表スキルの向上に引き続き取り組みを進めてください。 ・達成値が、中間から最終がアップしているのが素晴らしいと思います。 ・相手のスピーチを聞いた時、声の大きさ、明確さ、聞きやすさ等互いに話し合うことも。
豊かな心	○	主体的に表現しようとする児童生徒の育成	自己有用感の向上	・自分の良さに気付き、伸ばしていこうとする意欲や友達の良さを認められる児童の育成をめざし、特別活動と関連付けた道徳学習プログラム「吉（よ）き舎（やど）りプログラム」を計画実施し、自分との関わりで考えさせる。	・自己有用感を持つ児童を80％以上にする。	80％	83％	94％	118％	A	吉き舎リプログラムを作成した上で、運動会や学習発表会などの大きな行事を迎えたことで、児童が主体的に自分のめあてや役割を達成しようと思えるように指導できた。また、行事を乗り越える度に学級の絆が深まった。しかし、一部の児童については自己有用感を持てずにいる。	これまでの指導を継続するとともに、否定的な回答であった児童に対しては、どのような理由でそのように考えてしまうのか分析する。場合によっては面談をするなどして、悩みを解消したり、日常生活の見方・考え方をリフレーミングしたりする。	A A A A A	・運動会、発表会など、吉き舎りを通し、自己有用感を上げる取組を行っている。 ・保育所で大切にしてきた自己肯定感を小学校でも大切にしている。児童の表情が良い。 ・授業を参観してみて、心理的安全性が確保されている学習環境だと感じました。 ・行事や児童会活動など、子どもたちが主役になって、生き生きと活動している姿がうかがえました。 ・様々な行動、活動することで、少しずつ自分の中身が見えてくるかも。
			規範意識の醸成	・あいさつ、はきものそろえ、返事ができる児童を育成する。委員会活動を中心に全校に意識化を呼びかけ、児童が主体的に取り組む。 ・児童・教職員アンケートを実施分析し、取組を考える。	・規範意識をもつ児童を85％以上にする。	85％	82％	82％	96％	B	声の大きさに問わず，自分はしているという自信を持っている児童が多い。児童会が挙げた規範意識に関する生活目標に対して，各学年で取り組みを考えていた。しかし，返事や挨拶の声が小さく，しているつもりでも相手になかなか伝わらないことがある。	規範意識について児童が自己評価できる場面を継続して設けていく。全校，各学年で規範意識について取り組む機会を設ける。学習規律として発表の際など，返事をする指導を行っていく。できている児童に対して肯定的な声掛けをしていく。	A A B B	・児童会を中心に「挨拶運動」をモデルとして行い実行できた。生徒から自主的に行えていることが良いと思った。 ・表現力の基礎は挨拶であることを大切にしていることが伝わってくる。 ・規範意識が身についたものになるよう指導を進めていただきたい。 ・あいさつが、はきはきと大きい声で言える姿もあれば、声も出さずスルーする姿もあります。意識付けが、なかなか難しいと思います。 ・自由の中にもルールがあることを知らしめてほしい。

健やかな体		健康の保持増進と体力の向上	生活習慣の確立	・メディアコントロールウィークを設定し、自己評価する。 ・給食時間や各教科等の時間を活用して、食に関する指導を行うとともに、掲示やたより等を活用して、食に関する興味・関心を高める。	・メディアに触れている時間の目標を個人で設定し、達成できた児童を80％以上にする。 ・食に関心をもち、食べ物を好き嫌いせずに食べようとする児童を75％以上にする。	メディア 80% 食 75%	66% 87%	78% 86%	98% 114%	B A	1学期に引き続き、２学期も１週間メディアコントロールの取組を行った。保護者と児童が一緒に自己目標を考え実施できた。 １学期同様、食事を楽しみにし、好き嫌いせず残さず食べようする児童は高い割合であった。しかし、苦手なものは手をつけない、食事が楽しみでないと感じている児童も一定数いる。	具体的で各家庭に合った自己目標を設定できたことはよかった。メディア利用や基本的生活習慣について意識できるよう継続して取り組む。 担任等と連携を図りながら、食に関する指導を各教科だけでなく、給食時間等でも継続してできるよう計画し実施していく。児童それぞれの実態に合わせて声かけ等も引き続き行う。	B A A B B	・メディアコントロールに関しては、学校でも取り入れている。ただ大切なのは、家庭の取組か。 ・各家庭の事情を尊重し、親子で話し合う機会を作って取り組んだ。給食をよく食べている様子が、地域の話題の中で聞こえてくる。 ・学校だけでなく、保護者にも自分事として考えてもらい、連携した取組がなされています。 ・メディアコントロールをそれぞれの家庭に応じて家族で決めて行うのは、とても良いことだと思いました。スマホ、ゲームのあり方は、これからも大きな課題であることは間違いないでしょう。 ・保護者との連絡を密にして、情報交換しながら結果を。
			体力の向上	・新体力テストの県平均等や昨年度の自己記録をもとに、自己目標を設定させる。 ・体育科を中心に体づくり運動に取組む。	・新体力テストで、各学年8項目中３項目が県平均または全国平均を超えるようにする。	3項目	4項目	4項目	133%	A	全校共通の縄跳びカードを用いて各児童がに縄跳びに主体的に取り組むことができた。そして，大縄跳び大会に向けて，各学年全員が関わっての体力づくりを行うことができた。合同体育を通して，他学年の動きを見たり，真似したりすることで体力づくりに取り組むことができた。	体力テストで苦手な児童が多かった項目を重点的に2学期で取り組むことができるようにする。縄跳び大会は毎年全校で取り組む活動とし，新しい活動も取り入れていく。	A A A A B	・縄跳びや一輪車、体育などを通して児童が楽しめる取組が行えている。なわとびでは、児童が家庭でも頑張っている姿をよく目にしている。 ・寒い日でもしょっちゅう外で児童が縄跳びをしているように思う。体力の向上につながっている。 ・子どもたちの達成感をスモールステップでうまく高められていると思います。 ・縄跳びなどを通して、友達と学年内でとつながりを持ちつつ、切磋琢磨しているところが素晴らしいです。運動の苦手な子が、運動は嫌いじゃないという気持ちを持ち続けてほしいです。 ・体力向上についても、どのようにすれば体力UPになるか、指導が必要と思います。
信頼される学校		地域・保護者から信頼され期待される学校づくり	地域とともにある学校づくり	・保育所、小学校、中学校、高等学校、地域の各種団体との連携を図る。 ・学校だよりやHP等を活用した情報発信を積極的に行う。	・保、小、中、高や地域との交流活動を年10回以上行う。 ・保護者アンケートで情報発信に係る肯定的評価を90％以上にする。	交流 10回 情報 90％	95%	13回 95%	130% 106%	A	保小中高や地域との交流活動は、きさ教育の日や保小交流、小小交流、小中交流などを実施し、連携を図った。また新たな取組として、日彰館高校のビデオ作成への協力も行った。情報発信も紙・電子を効果的に活用して行うことができた。	交流活動を計画的に実施しているが、新たな取組が少なかったように思うので、フィールドワーク等を行い、より効果的な取組につなげる。情報発信は媒体それぞれの良さを生かし、適切に実施していく。	A A A	・吉舎小は地域の方との交流も実施できている。継続する必要あり。学校だよりでは、様子が良く伝わってくる。 ・保小の連携が気軽にできており、就学への安心感が持てる。学校だよりも児童の様子や学校の方針が良く分かる。 ・今年度、日彰館の授業での取組に協力いただき、ありがとうございます。高校生と小学生が交流する取り組みがあまりなかったので、少しずつ増えていくことを期待しています。 ・保小中高の取組が、子どもを通して、親が理解して評価できていけたらと思います。CSの取組が、保護者にも分かりやすく浸透していけたらいいですね。 ・ICTを活用したり、またそれを基本に発信ができると思います。
			働き方改革の推進	・半期ごとに実態を把握し、学校衛生委員会や企画委員会において取組を行う	・児童に向き合う時間があると実感する教職員の割合を80％以上にする。	80%	100%	100%	125%	A	児童に向き合う時間があると実感する教職員の割合が100％であった。目安である勤務時間外在校時間45時間以下を意識して働き方の改善を図っている姿がよく見られるようになり、全職員の月平均勤務時間外在校時間が25時間を割るようになってきている。	児童と向き合う時間があるととても実感している教職員は29％あり、前期よりも高まってきている。今後、働き方改革の推進を通して、自らの教職としての専門性を高め、教育活動を充実するという目的を達成し、教職員のさらなる働き方改革の意識の醸成に努めていく。	A A A A A	・日課変更、仕事を見直し、児童と向き合う時間を作っている。児童一人一人と会話する時間をとれている。 ・不偏のテーマにきちんと向き合っている。その目的が「子どもとしっかり関わること」になっていることが素晴らしい。子どもたちがのびのびとしている。 ・児童と向き合う時間があると実感している教職員が100％というのは素晴らしいことです。「働かせ」改革ではなく、本来の「働き方」改革が進んでいると思います。 ・先生方が100％とおっしゃっているのが素晴らしいです。 ・先生方が余裕があれば、子どもたちは学びに集中できると思います。

【自己評価】　A：達成度１００以上（目標達成）　、B：８０≦達成度＜１００　（ほぼ達成）　、C：６０≦達成度＜８０（もう少し）　、D：達成度６０以下（できていない）